

「地域とともに生きる人形館 ～高橋まゆみ人形館の夢～」 講演記録

日時：平成25年3月3日（日）
14:00～15:45

会場：市民会館うらわコンサート室

主催：さいたま市文化施設建設準備室

【講演】高橋まゆみ人形館支配人 井田 玲子 氏



長野県飯山市に高橋まゆみ人形館がオープンして3年、これまで45万人の方にお越しいただきました。来館者ノートを読み返すと、自分の人生を振り返り、大切な人への感謝の言葉が多く綴られていました。人形は人の形をしていて、自分自身を投影しやすい作品なのだと思います。



1. 飯山市の紹介

飯山市は長野県の北部に位置し、豪雪地帯にあります。お米が美味しく自然に恵まれた場所です。伝統産業である飯山仏壇、手すきの和紙（内山紙）の生産に加えて、農業、観光の4つが主な産業になります。2年後に北陸新幹線飯山駅が開業する予定で、まちを変えるラストチャンスとして期待をされています。そのきっかけになると考えられているのが高橋まゆみさんの人形です。

2. 高橋まゆみ人形館の紹介



高橋まゆみさんは飯山市在住の創作人形作家です。素朴なおじいちゃん、おばあちゃんや、田舎の風景の人形達を作っています。人形館ができるまでの約7年間、全国95箇所で巡回展が行われ、180万人の方に見ていただきました。その全国的な知名度と人気を活かして、飯山市に人形館を作ってはどうかという話が市議会を持ち上がったのが始まりです。

市の建物として人形館を建設する計画が進み、地元の方たちと時間をかけて話をしました。コンセプトは、交流人口を増やして市全体を活性化させること、ふるさと飯山を全国に発信することとされ、観光の拠点として作られました。

そうして建物はできましたが、オープンするまで色々な意見をいただきました。地元の方の多くは高橋まゆみさんの人形を知らなかったもので、そのギャップを埋めることが開館までの準備の中で一番大事なことでした。開館に先立ち市民に無料で見ていただく機会を2回作り、人形館を理解してもらう段階までいきました。また、旅行会社にはツアーの造成やPRのお願いに行きました。スタッフには「大切な人をお出迎えするような気持ちで接しましょう」という話をしました。

3. 集客について

人形館がオープンすると連日、多くのお客様に来ていただきましたが、人形館だけ見て帰ってしまうという問題も起こりました。そこで管理運営を任されている信州いいやま観光局では「ふるさと案内人」の仕組みを作り、市内をまわるツアーを作ったところ大変好評でした。観光局では「飯山旅々。」というHPで現在 354 の旅行プランを提供していますが、そのうち人形館に関するものが約 40 プランあります。



また、高橋まゆみさんと館内をまわる「お話し会」を行っています。お昼は地元の野菜などを使ったお弁当を市内の加工場において提供しています。こうしたことで地元の雇用、産業につなげていければと考えています。

人形館ができて、まちが変わってきたことを実感しています。例えば、飲食店の営業日が増えたり、空き店舗が喫茶店になったりしました。人形館の元スタッフ二人が、新しく和小物の店を始めました。また、お客さんが増えたので駐車場を大きくした店も出てきました。



4. 地域住民との連携について

高橋まゆみさんの人形を自分たちの宝物に思っていたくために、地域の人たちと一緒に歩いていく努力は重要です。夏休みには地元の子ども達に向けて創作粘土教室を開いています。



また、人形館が開館する時に教育委員会がサポーターを募集し、人形が好きな人、飯山が好きな人、人形館で何かしたい人が集まりました。観光客におもてなしをしたいという意見が出て、人形館の前の庭で芋を作り、焼き芋にしてイベントで提供したりこんにやくづくり体験をしたりして、皆さまに楽しんでいただきました。

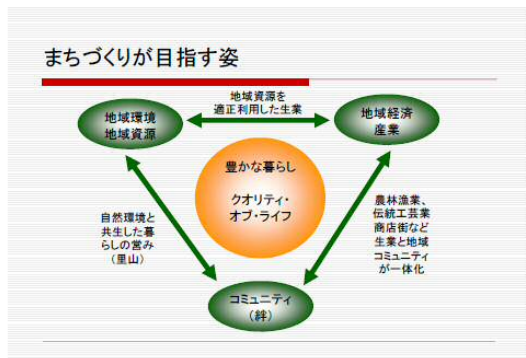


小学生のふるさと学習や高校生のインターンシップも受け入れ、飯山の宝物である人形の魅力を一緒に発信できればいいと考えています。

オープンから3年、お客様から「ありがとう」と言ってくることがスタッフの喜びになっています。「また来てね」「また来るよ」という声が飛び交う空間、それが飯山全域に広がることが観光まちづくりではないかと感じています。

【対談】井田 玲子 氏（高橋まゆみ人形館支配人）×熊谷 圭介 氏（立教大学・日本大学兼任講師）

熊谷氏 まちづくりが目指す姿は、「地域環境・地域資源」「地域経済・産業」「コミュニティ」の3つが機能して、「豊かな暮らし」が実現することです。人口減少や高齢化が進むと様々な問題が生じますが、飯山では地域文化を大事にした取組みが行われ、交流や出会いを大切によそ者を活用する仕組みができていることが、観光まちづくりの成功要因だと考えています。



高橋まゆみ人形館は家族の絆や地域の環境・文化をテーマとしたミュージアムであり、人と人が“つながる”しくみにつながり、地域社会を考える窓口になっていると考えています。

井田さんにいくつかお聞きしたいのですが、人形が持つ力とは何でしょうか。

井田氏 飯山の魅力は“癒し”など抽象的で、旅先でも人々の暮らしはなかなか見えないものですが、人形を通して具体的に見える形にしてくれることだと思います。

熊谷氏 高橋まゆみさんが作られた、合掌しているお年寄りの人形には“祈り”が感じられます。岩槻の人形にも、子どもの健やかな成長を

願う親の願いが込められています。人形にはそのような力があるのではないかと思います。

次に、観光まちづくりを進めるためには地域住民の合意形成が重要ですが、高橋まゆみ人形館ではどのようにされたのでしょうか。

井田氏 まずは巻き込むことから始めています。「何か手伝ってくれませんか」と呼びかけて体験をしてもらいます。例えば近所の方に「七夕飾りの竹がほしいな」と言って、知り合いに頼んでもらう、そうすると竹をくれた方が人形館に足を運んでくれる、という具合です。

熊谷氏 本格的な事業をする前に予備活動をして市民を巻き込んでいくことが大事だと思います。岩槻でも人形会館を作る前に、人と人がつながる仕組みのきっかけになることを理解していただくことが重要だと考えています。

続いて、「ふるさと案内人」についてもう少しお話いただきたいのですが。

井田氏 シルバー人材センターの事業としてガイドの養成講座を行い、修了した人が登録しています。要請があると派遣されてお客様の案内をする、有償のガイドです。ガイドをすると、もっと地元のことを知りたいと思うようになり発信していくという好循環が生まれています。

熊谷氏 井田さんをはじめ、飯山ではよそ者が地域のリーダーとして活躍されています。

井田氏 飯山には「やってみなし」という言葉があります。よそから来た人に面白いことをやらせてみようという寛容な所があると思います。

